

小樽商科大学大学院現代商学専攻修士論文・課題研究コース別審査基準

小樽商科大学大学院現代商学専攻修士論文及び課題研究の審査基準の1及び2に基づき、各コースが定めた修士論文及び課題研究の審査基準を示す。

1 経済学コース

(修士論文・課題研究審査基準)

- (1) 論文テーマの重要性（論文テーマの学術的・社会的意義及び貢献が明確に意識されているか）
- (2) 論述の一貫性（テーマに沿って問題が適切に設定され、論述が一貫し、結論が明確に述べられているか）
- (3) 先行研究及び関連研究に関する理解（計画されている研究テーマに関する先行研究及び関連研究が十分に渉猟され、適切に理解されているか）
- (4) 研究方法の妥当性（研究方法は、テーマ及び問題設定にふさわしいものか、また、資料・データの取り扱いや分析結果の解釈は妥当か）
- (5) 独創性（テーマ、問題設定、研究方法又は結論等に評価すべき独創性があるか）
- (6) 体裁（引照が適切に行われ、学術論文としての体裁が整っているか）

2 国際商学コース

(修士論文審査基準)

- (1) 論文テーマの重要性（論文テーマの学術的・社会的意義及び貢献が明確に意識されているか）
- (2) 論述の一貫性（テーマに沿って問題が適切に設定され、論述が一貫し、結論が明確に述べられているか）
- (3) 先行研究及び関連研究に関する理解（計画されている研究テーマに関する先行研究及び関連研究が十分に渉猟され、適切に理解されているか）
- (4) 研究方法の妥当性（研究方法は、テーマ及び問題設定にふさわしいものか、また、資料・データの取り扱いや分析結果の解釈は妥当か）
- (5) 独創性（テーマ、問題設定、研究方法又は結論等に評価すべき独創性があるか）
- (6) 体裁（引照が適切に行われ、学術論文としての体裁が整っているか）

以上の審査事項において修士論文としての所要の水準に達していることが必要である。

(課題研究審査基準)

課題研究の審査基準は修士論文の(1)から(5)の基準に準ずる。

3 国際商学コース（異文化理解）

(修士論文審査基準)

- (1) 学術論文としての体裁が整っているか。
- (2) 論文テーマの重要性。

- (3) 先行研究に対する理解。
- (4) 既存研究に加えられる新しい貢献があるか。
- (5) テーマに沿って問題の設定が適切になされ、論述が一貫し、結論が明確に述べられているか。
- (6) 文献や資料の収集及び読解程度。

(課題研究審査基準)

- (1) 課題研究の目的が明確に示されているかどうか。
- (2) 研究項目と目的の関連性が明確で、論理的に示されているかどうか。
- (3) 学問的及び教育実践的（職業的）伸長を裏付けるものであるかどうか。
- (4) 研究成果に応用性があるかどうか。
- (5) 成果物のレイアウトと読みやすさ。

4 企業法学コース

(修士論文審査基準)

- (1) 学術論文としての体裁が整っているか（文献等の出典の表示方法の適切性等）。
- (2) 論文テーマの学術的・社会的意義及び貢献が明確に意識されているか。
- (3) 計画されている研究テーマに関する先行研究及び関連研究が十分に渉猟され、適切に理解されているか。
- (4) テーマ、問題設定、研究方法又は結論等に先行研究に加えられる新しい貢献があるか
- (5) テーマに沿って問題が適切に設定され、論述が一貫し、結論が明確に述べられているか

(課題研究審査基準)

課題研究は、学術論文の形式はとらないが修士論文と同等のものであり、課題研究の審査は、上記修士論文の審査基準(2)乃至(5)を準用して総合的に評価する。

5 社会情報コース

(修士論文審査基準（合格の要件）)

当該論文の研究領域において必要とされる次の項目の一部または全部について学術論文（実証に基づく科学論文等）としての水準に達していること。

- (1) 独創性（狭義の独創性（オリジナリティー）のほか、新規性、時事性等の広義の新しさの観点を含む）
- (2) 内容（テーマに関連する事柄の網羅性、掘り下げの程度等）
- (3) 有用性（一般化可能性、応用可能性、経済性等）
- (4) 記述の的確性（章建て等の構成の適切さ、読みやすさ、正確さ、手続きの再現

可能性、簡潔さ、必要な程度の詳細さ等)

(5) レビュー（内外の既存研究・関連文献調査が十分であること等）

(6) その他当該分野で必要とされる事柄

（課題研究審査基準（合格の要件））

当該研究の領域において必要とされる、前項各項目の一部または全部について学術的研究（実証に基づく科学研究等）としての水準に達していること。